

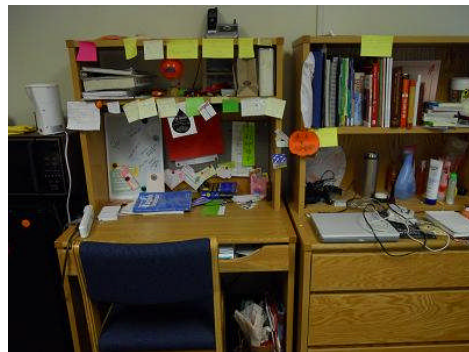
オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート（最終）

埼玉県・オハイオ州スカラシップ事業の平成 21 年度奨学生として、一年間、アメリカ、オハイオ州、フィンドレー大学で学ばせていただいた箱守慎子と申します。

私は大学卒業後のひとつの進路として、まだ具体的にはできていませんが、「学生支援」を行えたらと考えています。学生にとってもっとも重要である、または学生が何よりも培わなくてはならないと、私が思うものは「コミュニケーション能力」です。アメリカでの生活はその能力を得るために、私にとっては最高の環境をいただけたと感謝しております。今回の留学では、将来、私がそれに関わる仕事に就いたとき、きっと必ず役にたつだろう経験を多く得ることができました。この最終報告書では①フィンドレー大学のプログラム・勉強、②日常生活、を私がこの一年間で私なりに学んだことを通しながらお伝えしようと思います。

① フィンドレー大学のプログラム・勉強について

私が履修していたのは、フィンドレー大学にある I, E, L, P という英語コースです。朝、9 時から午後の 3 時ぐらいまでクラスがありました。クラスのほかに、学校の職員の方々や先生方、また大学の方針として「さらに多様性を」めざし、私たちはさまざまなプログラムに参加しました。フィンドレー大学にきている留学生たちで行われる文化の紹介・交流のイ



ベントである「インターナショナル・ナイト」や、日本語専攻のアメリカ人学生とのクラス「エクスペリエンス・イン・ジャパニーズ」をはじめ、一緒にスポーツやパーティーをしたりするなどアクティビティにも多く参加しました。

・勉強について

私がとくに好きだった学校のクラスは、IELP のリーディングのクラスです。私が中学生だったときに受けた英語授業のような、文法、単語練習中心のクラスとは違い（もちろんそれらも学びましたが）、多くは文化の違いや現代社会について話し合いました。このクラスでの勉強はとても興味深いものでした。「簡単に怒りの感情をあらわにするようになった現代社会」について、また「なぜ私たちは嘘をつこうとするのか？」というものや、私たちは学校を卒業したら、就職したら、結婚したら、というように幸せになるためには、

何かキッカケが必要だと考えがちだが、それは本当なのだろうか？といった、日本語でも深く考えさせられるテーマを持ちました。

フィンドレー大学では、IELP 英語コース履修生か、学部生かに関わらず、予約をした生徒には、授業時間外にこちらの現地の学生にレポートなどを見てもらうことができるチュータリングというシステムがあります。こういった学習システムは生徒の学校生活の助けになっています。私もこのシステムを利用したことがあり、授業ではわかりにくかった箇所や、さらに理解を深めたいときに、とても助かりました。「勉強をしろ」といっているだけでなく、それをサポートするシステムが充実しているところは、フィンドレー大学の評価されるべきところだと思います。



秋学期時間割

Hours	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
9 : 0 0					
9 : 5 0					
1 0 : 0 0	Composition		Composition		Composition
1 0 : 5 0					
1 1 : 0 0	Composition	11:00~12:15	Composition	11:00~12:15	Reading
1 1 : 5 0		Communication Skills		Communication Skills	
1 2 : 0 0		12:30~1:45		12:30~1:45	
1 2 : 5 0		Grammar		Grammar	
1 : 0 0	Listening		Listening		Listening
1 : 5 0					
2 : 0 0	Reading		Reading		Reading
2 : 5 0					
3 : 0 0			5:30~6:30		
3 : 5 0			Experience in Japanese		

アクティビティ

フィンドレー大学での生活は、その8割が「多様性」について考えさせられました。留学生と現地の学生がさらに交流を深めるにはどうしたらいいか?というように、その二つを混ぜて行われるアクティビティは多く行われました。「私は、こういった経験にとっても傷ついた」といったように、生徒が自分の経験を、何十人以上もの生徒の前で、マイクを持って主張する姿が頻繁にありました。その主張をテーマに、グループで話し合いました。日本の大学にも、自分の意見を主張する場と、それを多くの人と分かち合うチャンスが、もっとできたらと思いました。

・ 日本人学生としての活動

日本人学生と、日本語履修生で行われる「Experience in Japanese」のクラスは本当に素敵な経験でした。グループになり、日本とアメリカの違いについて話しました。衣食住文化はもちろん、学生らしい「先輩・後輩」文化など、私が印象として抱いていた「アメリカ」とはまた違う側面を知ることができました。この「違う側面から見る」という経験は、この一年間の生活で多くありました。ひとつの物事が事実としてあっても、その事実を囲む人々はまったく違う文化の中で育った人々であり、そこから生まれる意見の相違はとても興味深かったです。



「ファブス」活動は、とても楽しかったです。現地小学校に、日本語を教えに行きました。小学1年生から6年生ぐらいまでの生徒が集まり、日本語で色、家族の呼び方、数字、そして簡単な歌などを覚えました。今、完璧にできることを求めているのではなく、将来、彼らが高校生・大学生になったときに、日本語について興味を覚えてくれることが、目的のひとつであると、フィンドレー大学の川村先生がおっしゃったように、今、撒く種がすぐに刈り取れることを期待してしまいがちな私ですが、将来のことを考えて今努力することを怠らないようにしようと、一生懸命、日本語の歌を覚える

生徒をみて思いました。

アメリカでは人の前で行うスピーチや、意見を交換し合うディベートの練習を小学校のころから行うようです。相手の意見を理解し受け入れると同時に、自分の意見を相手に伝える方法を学ぶチャンスが、学生に対して、もっと日本にもあったらと思います。



② 日常生活

私の日常生活は、とても充実したものとなりました。休暇中に多くの場所に旅行することができ、ほかの国の留学生と、お互いの国料理を作りあうことや、一緒に友人の誕生日会や季節のイベントを考えあう生活は、本当にとっても楽しかったです。旅行先で日本語を話していると、「昔、日本に行ったことがあるよ」や「娘が日本語を学んでいるよ」と話しかけられるのも、本当に感激してばかりでした。アメリカで一年間、いろいろなことを経験しながら毎日勉強の日々ですが、本当に世界は広がるばかりで、その限界がありません。



学食メニュー



学生寮

ここフィンドレーでの一年間の留学生活は、今現在で思うことは、私を前進させたというよりも、自分のことをさまざまな観点から振り返ってみた「自分見直し」の一年間であったように思います。私のことをよく知っている人々がいた環境や、自分が築いた環境、そしてもちろん日本という国を出て、「自分自身がどういった人間なのか」を多くの異なる国の人から尋ねられました。私は、今まで私自身が考えたこともなかったような自分の思考、性格、能力や才能、そして「くせ」にいたるまで、「自分」について考える機会を、異なる文化を持つ友人と持ちました。それはとても、日本では味わったことのない経験でした。留学のチャンス을 いただいたこと、心から感謝しております。また、フィンドレー大学でお世話になった先生方、職員の方々にも大変感謝しております。今後、日本での活動では、フィンドレーでの経験を活かし、さまざまなことにチャレンジし続けようと思います。ありがとうございました。



埼玉親善大使としてオハイオ州ファーストレディーと会見



(箱守慎子さん 平成21年度 奨学生)

